

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム庄内ひかり	ユニット名	1号館
所在地	都城市庄内町8122番地1		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町村受理日	平成23年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4570201048&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4570201048&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年12月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>敷地内には畑や花壇を有し、周りには田畑も望める自然に囲まれた施設です。</p>
<p>【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】</p> <p>ホームで行う運営推進会議では、利用者の状況報告や外部評価等の結果報告等が行われ、市の職員を含む参加メンバーから出た質問、意見、要望をサービス向上に生かす取組が行われている。介護計画書は、利用者や家族の状態変化に対応した柔軟な個別介護計画となっており、アセスメントや意見交換、モニタリング、カンファレンスも職員全員で取り組んでいる。昨年課題となった重度化に対応する指針や同意書等も整備され、利用者や家族の意向を踏まえた上で医師や看護師と連携を図り、安心して納得した状況となるよう話し合いが繰り返されている。プライバシーを大切にした衛生的で安心して過ごせる居室は、利用者の状況に応じ整備を行っている。</p>

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に復唱し、個々が実践に繋げる様努力している。		地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念をつくり上げている。朝の朝礼では、出勤者全員で復唱し、実践につなげようと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学生の訪問や、中学生のボランティア活動の受け入れを通じての交流は出来ているが、日常的な交流は無い。		日常的な地域活動や地域住民とのかかわりはない。自治会等の加入もなく、単発の行事や季節の催し等のみにとどまっている。	地域社会とのつながりが途切れることのないように、日常的な散歩や買い物等にも積極的に出かけ、地域の人たちと交流する機会が増えることを期待したい。また、地域住民の一人としての自治会加入も望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、活かせる機会がない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとに行える内容に関しては、すぐに取り組めるよう計画実行しているが、事業所として動かないといけな事に関しては行えていない。		運営推進会議では、利用者の状況報告や外部評価等の結果報告等が行われ、市の職員を含む参加メンバーから出た質問、意見、要望をサービス向上に生かす取組が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、現状や取り組みについて伝え、市からの情報や助言をいただき活かしている。		管理者は積極的に市の窓口へ出向き、生活保護受給者の相談、利用者の暮らしぶりやホームの問題を相談し、問題解決に向けて一緒に取り組んでいこうとする姿勢がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活の中で、個々の職員がその時々状況で身体拘束か否かを考え、他の職員と相談しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。		玄関をはじめとする全ての空間が開放されているが、利用者では開けることの難しい敷地出入り口の重い門に、職員が依存している姿がある。玄関ドアノブも破損しており、利用者が開け閉めするには不自由である。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会をホームの内外で実施し、職員個々の理解や意識を向上させ、身体拘束をしないケアが実践されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等にて学んでいるが、殆どどの職員が学ぶ機会がない為、理解出来ていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族と一緒に契約の内容を確認し合い、その場で不安や疑問点を尋ね、説明・理解してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の現状を報告し、相談・方向性を話し合っている。		利用者や家族が、ホームの運営等について気づいたことを自由に相談してもらえる関係を築いている。ご意見箱を設置し、苦情や意見を前向きに受け止め、生かしていこうとするホームの姿勢がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(月1回)を通して、意見や提案をしているが、なかなか反映するまでには至っていない。		管理者と職員とで話し合う職員会議の場は定期的に設けているが、法人の考えが一律に決められており、職員の思いや意見が運営に反映できる体制にない。	地域密着型サービスの本質や役割をしっかりと踏まえ、利用者のために何ができるのかを代表者をはじめ、ホーム職員が前向きに話し合っていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者等の評価はあるが、職員個々については、一部の職員のみで整備等が行われていない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	対象となる職員のみで、全員が平等に受けることが出来る機会が設けられていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会による研修等が計画されているが、一部の職員のみ参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思伝達可能な利用者に対しては、会話等にて意向や要望を聞いているが、困難な利用者の場合、ADLの状態や行動から汲み取る。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話にて状況を説明し、家族の意向を尋ねている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用できる様柔軟に対応する。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者というより、家族の一員としての思いで接しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を月に一回手紙にして、ご家族に届けています。本人の希望が強い時は、電話にて様子を伝え、面会等をお願いしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族に協力していただき、季節に応じて外出等をお願いしています。可能な場所ならば、遠足という形で計画実施しています。	ホームがある地域に暮らしている職員が中心となって、いつも通っていたであろう散歩道やなじみ深い場所への散策を行い、地域の特性を踏まえた支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく個人のこれまでの生活歴を尊重しながら、過度な関わり合いを押しつけない様、性格等を考慮しながら支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から(本人を含む)の要望があれば、相談や支援にも応じることは可能であるが、今のところ契約終了後の相談等はない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の程度にもよるが、本人と共に生活していく中で、会話や行動から、本人の思いや希望を汲み取る努力はしている。	利用者本人の希望や意向が表出された時には、可能な限りすぐに対応を行っている。ホーム主体のケアの提供を押しつけるのではなく、利用者が望む支援の提供を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から、昔話等を聞いて、その人を知る努力をし、その人を理解し現状を知るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日常生活の中で、現状の把握に努め、知りえた情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて現状を話し合い、課題としてあがった事について、介護職・看護職の立場から意見を出し合い、ご家族の意向等も配慮しながら作成している。	利用者や家族の状態変化に対応した柔軟な個別介護計画が作成されている。アセスメントや意見交換、モニタリング、カンファレンスを職員全員で行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録及び連絡ノートを作成し、情報の共有をしながら、実践・見直し等に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む努力はしているが、ご家族の都合、医療関係との連絡等にて、すぐに動けない現状もある。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの美容師さんに、安価で訪問理容をお願いしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の下、必要であれば、整形外科・婦人科・精神科等、専門の医療機関との連携を持ち支援している。	利用者や家族が望むかかりつけ医となっている。医師や看護師へは、常々、情報提供を行い、連携を図っている。家族と協力し、通院介助を行うケースも多い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの情報を看護記録ノートに記入し、週一回の担当看護師の出勤時に、口頭での説明と共に、伝達・指導を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を通じて、情報交換や相談等を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思(思い)を尊重しながら、ご家族へ早い段階から相談し、事業所としてできることを説明し、状況を医師と家族と介護職に説明してもらい、今後の方針を共有している。	昨年課題となった重度化に対応する指針や同意書等も整備されていた。利用者や家族の意向を踏まえ、医師や看護師と連携を図り、安心して納得した状況となるよう話し合いが繰り返されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。 緊急時は看護師と連絡を取り、指示にて対応する。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っているが、日中のみで、夜間時の訓練は行っていない。また、地域との協力体制も築けていない。	年に2回の法人全体で取り組む総合防災訓練は行われているが、夜間を想定した火災訓練や地震等を含む災害を想定した訓練は行われていない。地域に対して、具体的な支援協力要請は行われていない。	火災、地震、台風等の災害を想定した訓練を行い、もしもの際にも慌てず確実な避難誘導ができるように、職員と利用者、そして地域住民が一体となった支援体制となることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴や性格を本人及び家族からの情報を基に知り、心の負担にならない様声かけ援助を行っている。		利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーに配慮したケアが提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行状態によって思いを伝えることが困難な方には、その人の行動や様子、表情から思いを汲み取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の職員数が少ない為、業務を優先せざるを得ない状況が多々ある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては気をつけているが、おしゃれについてはなかなか支援しきれていない。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームは、関連施設の厨房より配食されるため、準備は出来ない。 食事は一緒に食べているが、重度化により片付けは職員が行っている。		昨年と変わらぬ配食サービスによる食事の提供が行われている。検食扱いの職員が1人と、弁当を持参した職員が隣で食している姿がある。	暮らし全体の中で、食事が重要な位置にあることを理解した上で、職員と利用者が一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを前向きに検討してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態、水分量に関しては、個々の状態等を考慮しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや一部介助を行っている、歯科医・衛生士による定期訪問治療も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の乏しい利用者場合は、定期的にトイレ誘導を行っている。 尿意はあるが、失禁の多い利用者場合は、定期的に声掛けを行う。		排泄チェック表を用いて確認を行い、尿意、便意を大切に配慮ある対応が行われている。習慣や排泄パターンに応じた個別の排泄援助がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を通して便秘にならぬよう便秘薬の調整や、腸に良い乳製品を使ったおやつ等を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせての入浴は殆んど行えていない。 体調や心理状態によって支援は行っている。		利用者の希望に応じた入浴支援が行われている。利用者の習慣や希望に応じ、スムーズで安全、安心な入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、それぞれの就寝時間や、その日の体調等に合わせて休んでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が定期薬処方時に配布されるので、毎回確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方が多いので、カラオケを設置しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はできないが、ご家族の協力を得て、ショッピングモール等への遠足は計画実行している。		ホームの都合が優先され、利用者中心の買い物や近所等への散歩など、日常的な外出支援は行われていない。	利用者がホームの中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫し、計画・実践してほしい。



自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者さんは現金を所持していますが、殆どどの利用者さんが家族の管理になっています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば可能ですが、現在入所中の利用者様からの希望はない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓はされているが、生活感や季節感等は、代表者の指示で排除中である。		ホームの考えが優先されるのではなく、個々の利用者にとって居心地の良い場所、安心感のある場所であることが必要。利用者の家での過ごし方やなじみの物の情報を集め、居心地がよく活動しやすい環境となることを期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の席の配置等を工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの提供がある利用者様のみ行えている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーには対応していますが、一人ひとりが安全かつ自立した生活が送れる様な工夫はされていません。			